

道徳学習指導案

横浜市立南吉田小学校
授業者 山口晃史

- 1 日時 平成25年11月20日(水) 第5校時
- 2 学年・組・在籍数 第1学年2組 在籍者数 29名(個別支援学級児童3名を含む)
- 3 主題名 しんせつなところで 低2-(2)
- 4 主題設定の理由
(1) ねらいとする価値について

道徳で義務教育9年間で身につける力【2の視点】(主として他の人との関わりに関すること)

	内容項目	道徳的心情	道徳的判断力	道徳的实践意欲と態度
小学校 2年	(2) 幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。	(2) 幼い人や高齢者など身近にいる人に対して温かい心で接し親切にしようとする気持ちをもつ。	(2) 身近な人に広く目を向けだれに対しても温かい心で接し、親切にすることの大切さがわかる。 【相手に喜ばれ、自分も嬉しい ・関わり合う人が増える】	(2) 幼い人や高齢者などの身近にいる人に温かい心で接し、相手のことを考え、優しく接する親切な態度を取ろうとする。

道徳における「指導内容の明確化」

学年	問題意識を高める指導内容 (指導の着眼点と指導場面例)	基本的指導内容 (内容項目と学年別視点) (学習指導要領)	実践に活かす指導内容 (指導場面例)
1年	・ 幼い人や自分より弱い立場にある人に対するいじめをなくすことの大切さに気付かせる。 ・ 日常生活の中で様々な人々が自分に対して温かく接してくれていることを具体的に分からせ、温かい心で接することの大切さを感じ取らせる。	2-(2) 幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。	・ 親切にできたときの自分の満足感、充実感ともに親切にされた時の嬉しさ、喜びを体験させることを通して、身近な人に対して、温かい心で接し、親切にしようとする態度を養っていく。
2年	・ 親切にする対象が気の合った友だちに限定されている傾向に目を向けさせ、幼い人や高齢者等の身近にいる人に温かい心で接することの大切さに気付かせる。 ・ 親切にすることによって、ともすると代償を求めたり、報いられたりすることを期待してしまう傾向があることに目を向けさせ、温かい心で接し親切にすることの大切さに気付かせる。	○自分より幼い人や弱い立場にある人に対して、いたわりの心もち、親切にしようとする。 ○お年寄りに対して優しい心で親切にしようとする。	
		○自分より幼い人に対して温かい心で接し、親切にしようとする。 ○困っている人やお年寄りに温かい心で接し、親切にしようとする。	

本時で取り扱う内容は、低学年2-（2）は「幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。」である。他の人に接するときの基本的姿勢に関するものであり、相手に対する思いやりや親切な心もち実践のできる児童を育てようとする内容項目である。

よい人間関係を築くには、相手に対する思いやりが不可欠である。思いやりとは、相手の立場を推し量り、自分の思いを相手に向けることである。そして、それは、具体的には温かく見守り、接することや、相手の立場に立った励ましや援助などを含む親切な行為などとして表れることが期待される。特に学校においては、多様な人との直接的なかかわり合いの機会を多くし、人間愛を根底とした思いやりや親切な行為の意義を実感できる機会をつくっていくことが重要である。

この段階においては、身近な人に広く目を向け、温かい心で接し、親切にすることの大切さについて考えを深められるよう指導する必要がある。特に、身近にいる幼い人や高齢者等との触れ合いの中で、相手のことを考え、優しく接し、具体的に親切な行為ができるようにすることが求められる。

（2）児童の実態と指導の方向

本学級の児童は、素直な児童が多くやさしく接しようとする場面も多く見られる。算数の学習ではわからない児童は「教えて」とたのみ、頼まれた児童は快く教えている場面が日常的になっている。連絡帳を書く時も、自分が早く書き上げることが出来た児童は日本語の習得が進んでいない児童に対して丁寧に字の書き方や書くことを教えている場面も見られる。他にも教科書を忘れてしまった友達に対して見せてあげたり、けがをしてしまった友達を見つけると保健室についていつてあげたり、給食をこぼしてしまった友達に対して片付けを手伝える優しい心をもっている。

しかし、自分と仲の良い友達だけに関わろうとして、普段あまり遊んだり、話したりしないと児童に対しては困っていても無視してしまったり、自分より物静かな児童に対して口調が強くなってしまったりする児童や日本語での会話が成立できない児童に対しては遊びの仲間に加ることができないこともある。また、日本語での会話が困難な児童は教師の投げかけや友達とのやりとりも理解はできていないはずだが活動に取り組まなかったり、わからない振りをして過ごそうとしたりする部分も見える。

これは、教師から褒めてもらおうと思っていたり、自己中心的な考えで行動することの表れであると考えられる。また、日本語の習得が進んでいない外国籍児童や外国につながる児童には必要最小限での関わりしか持とうとせず、弱者を見捨ててしまう行動ともとれる。今までに教師や保護者、保育士などから「人にはやさしく接しなければいけない」と言われていて、頭ではわかっているけども行動がともなわれない心の弱さであると感じる。そして、外国籍および外国につながる児童は就学前を母国で過ごしていることも多く、自国の文化によっては多様な価値観や家族形態（親とは離れて暮らしている）があり保護者からやさしくされることは当たり前だが、自らがやさしく接する場面が日本より少ない可能性がある。

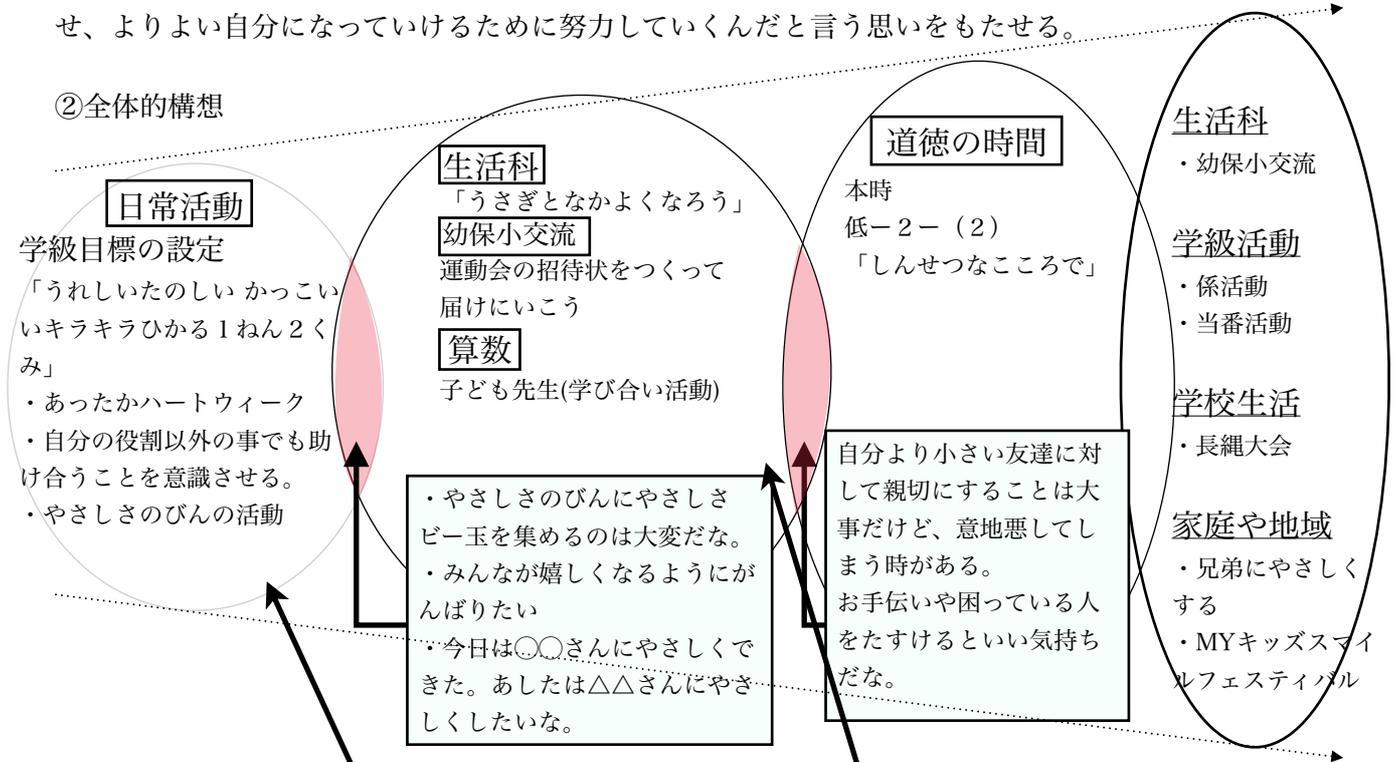
そこで、親切にするということは、まず、身近な人にやさしくできることから始まり、それは自分の気持ちや感情に左右されずやさしくする事が大切であると言うことを知り、そして親切にすることが自分も相手も嬉しくなったり、いい気持ちになったりするということを感じ、身近にいる小さい子や高齢者などにやさしく思いやりを持って接する態度を養っていきたいと考えている。

(3) 学習の総合化を図った指導計画

①基本のおさえ

- ・日常の活動との関連を図っていく（帰りの会や心のノートの活用、掃除など）
- ・教科の学習内容との関連を図っていく（生活科の学習）
- ・人を選ばず親切にすることの気持ちよさを感じ、すすんで親切にしようとする意識を高める。
- ・「褒められるから」ではなく、教師の励ましや声かけにより心から親切にすることのよさを味わわせ、よりよい自分になっていけるために努力していくんだという思いをもたせる。

②全体的構想



友達と助け合ったり、優しくしたりすることの大切さに気付かせるために
「うれしいのしいかっこいいキラキラひかる1ねん2くみ」という学級目標をつくり、みんながうれしくなったり楽しくなったりできるようにお互いを助け合いやさしくし合うことを意識できるようにしてきた。
帰りの会では「やさしさのびん」の活動を行い、優しくしている場面をみたり経験したことを紹介し親切にしたり、優しくすることよさに気づけるようにしてきた。また、けんかや自分勝手な行いをみると「それはみんなはいい気持ちかな。いやな気持ちかな。」と繰り返し問いなおし、自分の行動や友達の行動について振り返るようにしてきた。

誰にでも優しくしたり、親切にすることがの気持ちよさに気づき、進んで行動することの大切さを考えさせるために
すでに取り組む作業が終わっていたら、途中の友達を手伝ったり、困っている人がいたら声をかけて助けてあげたりした場面を紹介し褒めるようにしてきた。
ただ、褒められたいという気持ちで行動する児童もみられ、本当の親切にすることの気持ちの良さや優しくすることの大切さに気づいている児童は少ない。意地悪をしたり、ぶつたり蹴ったりする児童もいる。
そこで、困った時にはそっと手を差し伸べてくれる温かさに触れたり、親切にされたときのほんわかした気持ちを大切に「相手がうれしくなると、自分も嬉しくなるし、いい気持ちになれる」ということを考え、意識を高めていきたい。

(4) 資料について

○資料名「はしのうえのおおかみ」(出典：文溪堂および東京書籍 道徳副読本)

※本文の出典は文溪堂および東京書籍のものを修正・加筆して使用する。

提示する挿絵は文溪堂のものを使用する。

○資料の取り扱い

森の中の一本橋の上で自分より小さい動物たちに意地悪をしておもしろがっていたおおかみが、熊に親切にされたことをきっかけに今までの行いを反省し、自分より小さい動物たちに対しても優しくするという内容である。

自分よりも小さい動物に対して意地悪をするおおかみや、おおかみに対してやさしくするくまの態度を話し合い、親切にすることの大切さを考えさせたい。また文末の「おおかみはなぜかまえよりずっと、いいきもちでした」からおおかみの心情の変化をよみとり親切にすることが自分も相手も気持ちがいいことに気づかせたい。

5 研究主題との関連性

研究主題
ICT機器を活用した、子どものわかりやすい授業をめざして

<視覚効果をねらい、教材内容の理解を促す手だてとして>

本学級の児童は、約4割の児童が外国籍および外国につながる児童が在籍している。中には日本語による学習が困難な児童もあり、国際教室での日本語学習を並行して取り組んでいる。本授業では紙芝居やペープサートで行われる教材提示をプレゼンテーションソフトを用いてアニメーション等を利用して表情や動作を視覚的にみせ内容理解の一助とする。

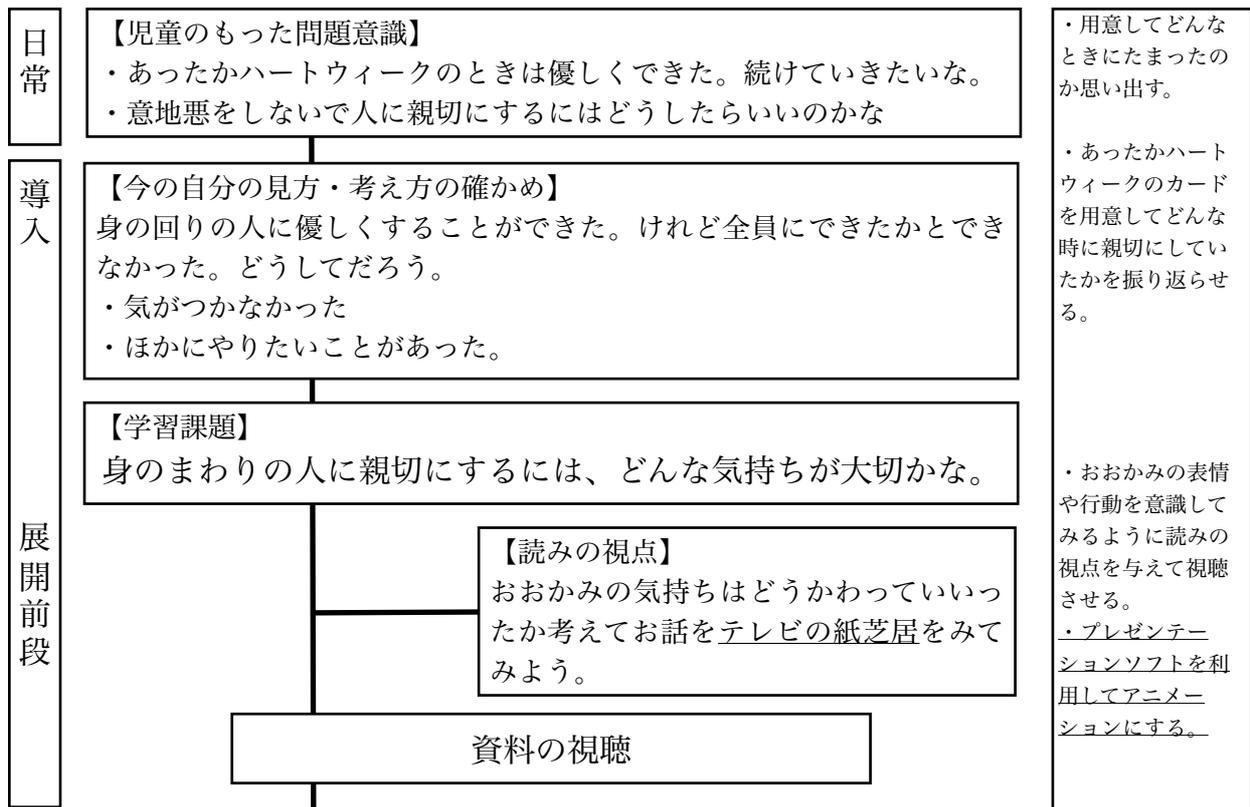
6 本時のねらい

身近にいる小さな子やお年寄りに対して親切に接するようになると、相手も自分も嬉しくなる事がわかり、身近にいる小さい子やお年寄りにやさしくしようとする態度を養う。

7 展開

◎中心発問 ○発問 ●補助発問 ・予想される発言

<支援と留意点>



展開後段

【資料の分析と価値の追究】

- 意地悪をしていたおおかみはどんな気持ちだったかな。
 - ・ だんだんたのしくなってきた。 ・ きもちがいいな。
 - ・ もっとやってやろう。
- なぜおおかみは熊の後ろ姿をずっとみていたのかな。
 - 前の人とは違うことを言ってね。
 - ・ やさしいな。 ・ なんだかいい気持ちだな。
 - ・ 意地悪をしないでやさしくしてあげよう。
 - ・ 今までうさぎやきつねとかに悪いことをしていたな。
- ◎なぜおおかみはまえよりずっといい気持ちになったのかな。
 - ・ ありがとうがいつてもらえるから。
 - ・ これからはうさぎやきつねに優しくしてあったかハートにしたいな。
 - ・ いいことをすると自分も相手もいい気持ちになる。

親切にすると 自分も相手もいい気持ちになれる。
 身近にいる小さい子やお年寄りにやさしくする。

【今の自分に必要な見方・考え方の振り返り】

- 今の自分は前のおおかみとあのおおかみとどちらの気持ちで親切にしているかな。

・ 勉強がわからなくて困っている友達がいて、自分から教えようかと進んで勉強の手伝いをした。
 ・ 自分の係の仕事でなくても自分から「手伝うよ。」と声をかけて手伝った。

・ 友達が勉強がわからなくて困っているとき、先生いわれて教えてあげたことがある。
 ・ 手伝ってられる前に自分から手伝う友達をみてこれから自分もそうしたいと思っている。

・ 前のおおかみみたいに意地悪をしていたことがある。これからはお互いによい気持ちになれるようにがんばりたい。
 ・ ともだちが筆箱を落とした時に一緒にひろってあげた。「ありがとう」といわれいい気持ちになった。

【実践への意欲】

あったかハートウィークのテーマソングをみんなであうたう。

【機会・活動・場】

- ・ 帰りの会でやさしさのびんの活動を継続し、友達の親切な行いを紹介する。
- ・ 心のノートを活用をする。
- ・ 当番活動や班活動で友達にやさしくすることをの大切さを感じとらせる

終末

日常

・ 役割演技して考えを深める。
 役を演じて感想を聞く。
 熊=教師
 おおかみ=児童
 ・ 熊のやさしさにふれて、やさしい気持ちになっていく心情に気づかせる。

・ 親切にすると、自分も相手もいい気持ちになれることに気づかせる。

・ 日々の生活の中で、自ら手伝おうとしていたり、優しく声をかけている子を見逃さず、意図的に指名する。

・ 語り合えるように同じような経験がないかたずねる。

・ 電子黒板で歌詞を提示しうたいやすくする。

8 板書計画

み
の
ま
わ
り
に
い
る
人
に
し
ん
せ
つ
に
す
る
に
は
ど
ん
な
き
も
ち
が
大
せ
つ
か
な

い
じ
わ
る
を
し
て
い
た
お
お
か
み
は
ど
ん
な
き
も
ち
か
な

く
ま
の
う
し
ろ
す
が
た
を
ず
つ
と
み
て
い
た
お
お
か
み
は
ど
ん
な
き
も
ち
に
な
つ
た
か
な

お
お
か
み
は
ま
え
よ
り
ず
つ
と
い
い
き
も
ち
に
な
つ
た
の
か
な

し
ん
せ
つ
に
す
る
と
い
じ
ぶ
ん
も
あ
ら
ま
い
ら
な
い
ま
も
ち
に
な
れ
る
お
お
か
み
は
ま
え
よ
り
ず
つ
と
い
い
き
も
ち
に
な
れ
る

挿絵

挿絵

挿絵

17... はしの うえの おおかみ

いつほんばしが ありました。
うさぎが、まんなかまで わたつ
て きた ときです。

「こら こら。」
と、おおかみが、うさぎを にら
みつけました。

「もどれ、もどれ。」
おおかみに となられて、うさ
ぎは うしろへ もどって いき
ました。

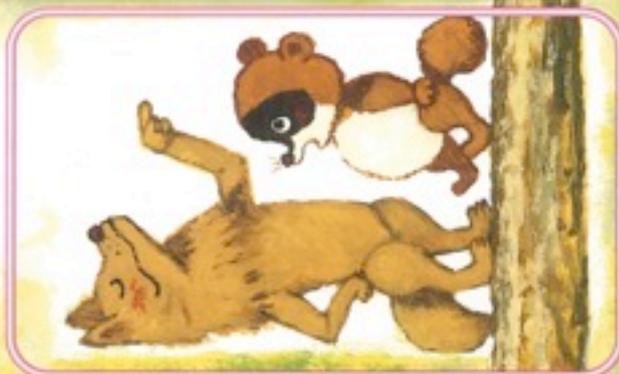


「えへん、えへん。」
おおかみは、この いじわるが、
とても おもしろく なりました。

きつねが わたつて きて、
「こら こら、もどれ、もどれ。」
たぬきが わたつて きて、
「こら こら、もどれ、もどれ。」

おおかみは、
「こらこら……。」と いいかけて、
くちを おさえました。

くまが たつて いたのです。
「わたしが もどります。」
おおかみが いいました。

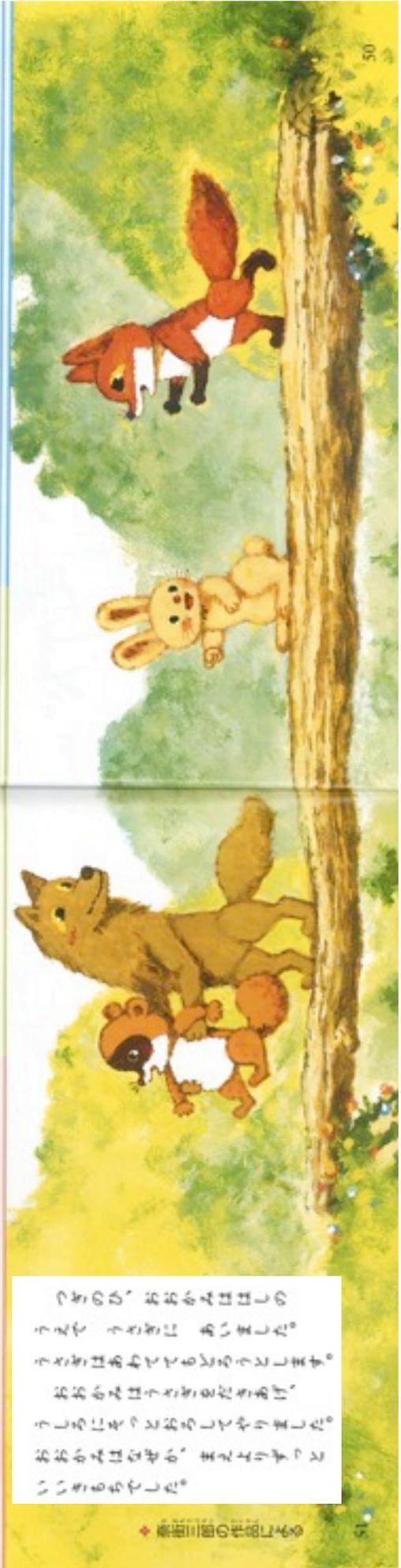




くまは、てを ふつて いました。
 「ほら、こう すれば いいんだよ。」
 おおかみを だきあげて、うしろく
 わたして やりました。



「なんて やさしい くまさんだろう。」
 おおかみは、はしの うえから くま
 の うしろすがたを、いつまでも いつ
 までも みて いました。



ごちのみ、おおかみははしの
 うえで うさぎに 両いしました。
 うさぎはあわててもとろうとします。
 おおかみはうさぎをだきあげ、
 うしろにそつとおろしてやりました。
 おおかみはなぜか、まえよりすつと
 いいちもちでした。

◆ 森田三樹のせせりもる

